

平成 30 年度 食育推進に係る実践報告書

学校名	尾道市立御調中央小学校
-----	-------------

1 学校における食育の現状（昨年度からの課題等）

- ・給食のごはんを週3回家庭から持参しているが、定量持って来る持参率が低い。
- ・小学校の残食の傾向が、中学校の残食に繋がっている。
- ・地場産物や郷土料理を給食に計画的に取り入れ、地場産物や郷土料理について提供した情報が、児童にしっかり理解されていない。

2 学校の食育に係る目標（成果指標・目標値）

- 本校の評価指標 ・給食残食率の低下 1.8%以下
- 本校食育の達成目標 ・望ましい量の主食を持って来る児童の割合 60%
- ・地場産物・郷土料理のアンケート未回答率（5年生・6年生） 0%
- ・食事の準備や片付けの手伝いをする児童の割合（5年生・6年生） 80%

3 食育の目標に対する具体的な取組

【取組1】（テーマ） 給食残食率低下の取組

- ① 学校全体として、「もう一口運動」を実施し、給食がどうしても食べられない児童に対して取組を行った。
- ② しっかり給食が食べられるように、給食時間を5分間延長した。
- ③ 毎月のエンジョイウイーク（外遊び週間）の項目に、「給食を全部食べる。」を入れて取組を行った。
- ④ 配膳室に児童が食器や残したおかずを返しに行く時に、配膳員さんに「ごちそうさまでした。」と感謝の気持ちを伝え会話することで、全部食べようという意欲に繋がった。



ごちそうさまでした。

【取組2】（テーマ） 主食の摂取量増加の取組

主食の摂取量の増加を図るため、毎月1回持参したごはんを計量し、指導・啓発に繋げている。

- ① 保健給食委員会が中心となり、ごはんをしっかり持って来るよう放送したり、ごはんの計量やごはんを持って来る意欲付けのためのごはんバッチのデザインを考案し、作成・配布を行った。
- ② 配膳室前に、ごはんを目安量持ってきた児童の名前を掲示することで意欲付けをした。
- ③ ごはんを目安量持ってきていない児童には、計量日に持ってきた量を記入した「ごはんシール」を渡し、連絡帳に貼ることで、保護者にもごはんの量を把握してもらった。
- ④ 学級懇談会で、持参するごはんの量について話題にし、学校・家庭が連携して取組を行った。



ごはんを目安量持ってくると、「ごはんバッチ」がもらえます。

3年・4年生、170g～200g
しっかり持ってきてね～
私ば ケラム

目安量より少ないと、「がんばりシール」を渡します。



持ってきたごはんを計量している様子



ごはんの木

【取組3】(テーマ) 「地場産物・郷土料理」を覚える取組

- ① 保健給食委員会で考えた、尾道・御調の地場産物8種類、郷土料理3品を給食時間に5年生・6年生が覚えていった。給食時間の放送では、その日に使われている食材の産地について放送し、産地について意識させた。
- ② 総合的な学習の時間に、4年生はパパイヤや干し柿について、5年生は米作りについて学習した。給食の献立で、干し柿をカレーに入れたり、自分たちが作った米を全校で食べることで、地場産物についての意識を高めることができた。
- ③ 郷土料理のめたや大根なますを給食の献立に取り入れることで、郷土料理の名前と味を覚えていった。



4 「ひろしま給食100万食プロジェクト」の取組について

(1) 市教育委員会等との連携

- ① 尾道市学校保健会学校栄養士部会でメニューの開発・実施に向けて研修会等を開催した。

(2) 学校での取組

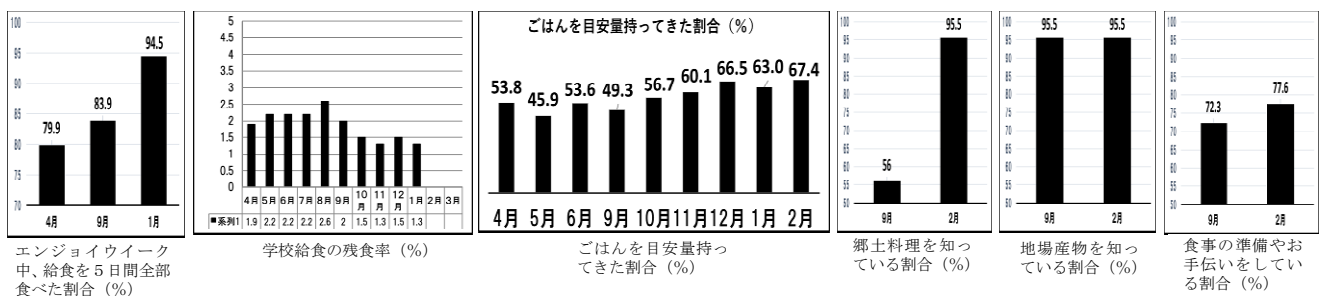
- ① 家庭・地域には食育通信等を使い、ひろしま給食のレシピを繰り返し紹介した。
- ② 5年生・6年生が家庭でひろしま給食を作り、児童・保護者から出された感想を掲示したり、食育通信で紹介した。
- ③ ひろしま給食や家庭科の調理実習で作った料理を家庭で作ることで、料理を作る楽しさやお手伝いの大切さを学ぶことができた。



5 取組に対する成果と課題

【成果】① 残食については、学校全体の取組の成果として、目標値を達成した。(1.8%以下)

② ごはんを目分量持ってくるのが児童や保護者に定着してきた。(60%)



【課題】① 地場産物や郷土料理については、総合的な学習の時間や給食の時間に計画的に指導したので、多くの児童がたくさん書いていたが、数名書けない児童がいて、指導が全体のものになっていなかった。(地場産物・郷土料理のアンケート未回答率(5年生・6年生) 0%)

② ひろしま給食や家庭科の調理実習で作った料理を家庭で作る宿題を出したり、お手伝いの大切さを給食の時間に話していったが、広島県の目標値の80%に到達しなかった。

6 今後の取組に向けた改善方策について

- ① 残食や目分量のごはんを持ってくる取組は、来年度も学校全体で行い、特に全部食べる大切さについて指導していく。
- ② 5年生と6年生については、家庭科や保健の授業での学びに加えて、ひろしま給食を考えたり作ってみたりお手伝いをするなど、1年間を通して食育について考えていく。